

NEWS!

Vol.38-1
No.191
平成31年1月号
編集・発行
松浦機械製作所

謹賀新年



明けましておめでとう御座います。

昨年、米ドル為替相場が年初から4月にかけて円高基調で推移しましたが、その後徐々に円安基調となり、年末で年初とほぼ同じレベルとなりました。一方株式相場は2月に崩れて以来、大きく変動した一年でした。その間、米国トランプ政権の自国優先の政策方針を貫くことで自由貿易の規律が不安定となり、世界経済は色々な形で影響を受けました。中国経済の減速やここ数年好調であった半導体産業も後半にかけて鈍化傾向となる等、調整要因はありましたが、良好な米国経済が下支えとなり、世界経済は底堅さを維持しながら本年を迎えたと言えます。今後、米中貿易摩擦の動向、英国Brexit問題や欧州政治の混乱等々、潜在的な不安定要素はありますが、世界経済が堅調に推移し好調を維持してくれると願う次第です。

日工会は、昨年期の途中で年間総受注額を1兆8,500億円に上方修正しました。本原稿執筆時点ではその数値を超えるか微妙な状況ですが、一昨年に続いて昨年は最高額を更新するのは間違いありません。工作機械業界全体が内外市場ともに好調な1年であったと感じております。

そんな環境下でマツウラは、9月米国シカゴで開催されたIMTS2018にて大変好評を得ている簡単操作・自動化対応の5軸制御立形マシンニングセンタMXシリーズ全機種MX-330 PC-10、MX-520 PC-4、MX-850をはじめとする最新鋭機7台を展示、お陰様で期間中は来展者で常にブースが賑わっておりました。また11月東京で開催されたJIMTOF2018では、5軸+無人化+自動化を押し出したMX-850 PC4を発表、これでMXシリーズ全てにおいてシンプルオートメーション対応可能となりました。また従来機に比べ最大工作物寸法を拡大した上で性能を徹底的に見直し生産性・作業性を高めた5軸制御立形マシンニングセンタMAM72-70Vを発売、より高いお客様ニーズに対応しました。さらに、レーザ焼結+高速切削の融合による新しいモノづくりを提案するハイブリッド金属3DプリンタLUMEX Avance-60の実演展示等々、皆様から好評を得ることが出来ました。どちらの展示会も過去最高の入場者を記録し、好調な市況を反映しておりました。

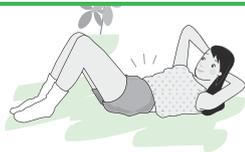
新年を迎えるにあたり、2019年は年号も変わり新時代を迎えます。人材不足対応の無人化・自動化に対するニーズは、今後も高い水準が予想され、ここはマツウラの強みを発揮できる領域です。生産システムの効率化や金属3Dプリンタの販路拡大を推し進めながら着実に活動して参ります。

本年も引き続き、格別のお引き立てを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

株式会社松浦機械製作所
代表取締役社長 松浦 勝俊

日本のヘソ

福井 No.189



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第189回目は映画「えちてつ物語～わたし故郷に帰ってきました～」の話です。

福井県には福井市から坂井市と勝山市を結ぶ第三セクターで運営する「えちぜん鉄道」があります。この「えちぜん鉄道」を舞台にした映画「えちてつ物語」が11月3日(土)に福井県内の全映画館で先行上映され、11月23日(金)より全国でのロードショーが行われました。

「えちぜん鉄道」の前身である京福電気鉄道は、平成

12年と平成13年に電車同士の正面衝突事故を起し、運行停止命令を受けました。しかし、平成14年に地域の足としての鉄道を復活するために第三セクター運営の「えちぜん鉄道」として再開。その時にローカル線では稀な女性のアテンダントを乗務させ、またアテンダント嶋田郁美さんが「ローカル線ガール」との本を出版したことで注目を集めました。この本をヒントに映画が作られ、お笑いタレントの横澤夏子さんが、東京から故郷にUターンする新人アテンダント・山咲いづみ役で主演を演じています。Uターンした若者の成長と家族の再生を描き、心温まるローカル線の魅力と沿線の美しい風景をバックに「ふるさと回帰」を語りかけています。

ユーザーを訪ねて

No.176

合金鋳造で創業し鋳造技術を活かして
更に自社製品を製造販売する

今回のユーザーを訪ねては、JR姫路駅から車で南に10分の距離にある株式会社宝角合金製作所を取材いたしました。同社の位置する播磨臨海地区は、瀬戸内海に面した大手企業の工場が多数操業するエリアで、製品出荷額では東京23区や大阪市などをも上回るモノづくり拠点です。取材には宝角勝利社長にご対応頂きました。昭和4年に祖父宝角勝次郎氏が非鉄金属工場として創業し、2代目は父親の宝角勝会長が、そして宝角社長が3代目となります。

「昔は住まいと工場が一所にあり、祖父や父の仕事をしている姿を見ていたので自ずとこの仕事を継ぐと思っていました。大学では機械工学を学びました。卒業時はオイルショックで就職が大変な時期であり、卒業して直ぐ当社に入社しました。入社当時は20名弱の会社でした」と宝角社長。



▲工場全景

鋳造から農業ポンプメーカーへ、更に部品加工へ

「昭和30年代ごろに非鉄金属の鋳造関連の仕事を行っていましたが、鋳造だけでは仕事がないので自社製品を作りました。当時の田んぼでは灌漑が整っていないので、水の供給にポンプが必要でした。その農業用ポンプを製造しました。また、この辺は塩田が広がっており、海水をくみ上げる為のポンプも製造しました。当社の銅合金鋳造技術を使い、海水でも錆びないポンプを製造していました。しかし、ポンプの需要は季節要因が大きく、6月には工場内にポンプが溢れていますが、それを過ぎると工場が暇になります。鋳造をしながら、ポンプメーカーとして経営を行っていましたが、高度経済成長期に入りポンプの受注が減少しました。播磨臨海地区は大手企業の工場が多いので、部品加工の仕事がありました。そこで、他社から依頼のある部品加工業へと経営方針を転換し、経営を安定化させました」と宝角社長。

経営理念「私たちは創造業」

「当社には設備機械が約50台あります。旋盤加工を中心に部品加工を始めたので、6割の機械が旋盤です。現在も汎用旋盤からNC旋盤、また複合旋盤と様々な機械を設備しています。近隣の工場から、大型の部品加工が求められ、鋳造で異形物の旋盤加工は当社の強みです。平成20年には当社ホームページ上に“大型旋盤.COM”大型シャフト、大物フランジなどの大物旋盤加工に小ロットに対応しますとバナー掲示しています。様々な業界の産業機械部品加工を行っていますが、射出成形機の部品が主力です」

「鋳造を行っていたので、仕事先の開発担当者から素材について相談を受けることがあります。試作を当社で行い、量産に移行する際の鋳物形状をどうするかなど、鋳造の経験が活かされています。現在鋳造は行っていませんが会社名の“合金”は外せません。また、企業理念に“創造業”との言葉があります。これは加工だけでなく鋳造など素材を手がけていた経験を活かし、一連のモノづくりでお客様にお応えできる会社でありたいとの思いを込めています」と宝角社長。

5軸制御立形マシニングセンタMX-520 PC4を設備

「マツウラのMX-520 PC4を平成30年6月に設備しました。当時老朽設備の入れ替えを検討していました。5軸加工の部品は殆どありませんが、部品を傾けることが出来れば短い工具を使って加工の生産性がよると考え5軸加工機を、また以前の機械もPCが付加されていたので、PC付きを調査しました。展示会やマツウラユーザーを訪問して実機を見学し、フロアスペースが小さく、また操作性も良かったので、総合判断でMX-520 PC4に決めました」

「現在、従来部品の加工をMX-520へ順次移行をしています。鋳造部品は季節によって硬度が変化するなど加工には経験が必要ですが、オペレータは『従来機に比べて機械



▲宝角勝利社長

産業機械の部品加工を行い、 株式会社宝角合金製作所

剛性が高いので切削条件が20～25%上げられるので生産性が向上します』。また『加工途中に精度確認をする際には接近性が良いので使い易い』との声があります。そのお陰で、様々な部品を**MX-520**で加工集中するため他の機械とのバランスに苦慮しています」と宝角社長。



▲MX-520 PC4

竹粉碎機「Bamboo Mill」

「以前に農業用ポンプを生産していたので、自社製品があったらいいなと思っていました。そんな時にある方が、竹粉碎機の製作が出来ないかとの依頼がありました。リーマンショックの時仕事で半分に時間山ほどあったので依頼に応じ製作しました。折角作ったので、自社製品の竹粉碎機“Bamboo Mill”として平成21年に販売を開始しました。構造は、切り出した竹を機械にそのままセットすると粉碎されて粉状になります。今までに30台納品しました。今月も鹿児島に出荷します。競合はありますが、当社の強みは機械を自社で作っている所以对応が速やかに行えることです」と宝角社長。

機械を製作販売するだけでなく、同社ではこの機械を使って実際に竹の粉を作っています。同社ホームページ上に“土づくり研究所”天然の竹100%を原料とした土壌改良材で安心・安全な土づくり研究をしていますとのバナー掲示をしています。そして、ガーデニングをされている個人の方に通信販売をしています。取材した時にも、“土づくり研究所”のダンボール箱が出荷を待っていました。

ココピート粉碎機「いきなりココピート」

「土壌改良剤としてココピートが注目されています。ココピートは、ココナッツ果実の堅い殻を作るファイバー状の層で、マットやロープを作る為に取られた繊維の残りを、3年から5年ほど堆積、醗酵させたエコロジーな天然資源です。しかし、ココピートはブロックで出荷され

株式会社宝角合金製作所 概要

本 社 〒672-8035
兵庫県姫路市飾磨区中島1345-2
TEL 079-234-4116
FAX 079-234-5116

U R L <http://www.houz.co.jp>

役 員 代表取締役 宝角 勝利

創 業 昭和4年

設 立 昭和34年

従 業 員 52名

事 業 内 容 産業機械部品加工、
竹粉碎機「Bamboo Mill」製造



▲稼動する竹粉碎機「Bamboo Mill」

▲粉碎された竹の粉

るので、使用するときには粉碎する必要があります。プールの水に入れて戻したり、フォークリフトを使って粉碎するなど、大変な手間がかかっています。そこで、当社は竹粉碎機の技術を応用して日本で唯一のココピート粉碎機を平成26年に開発しました」

「土づくり研究所があるので、粉碎した粉を販売し、良さを知ってもらって機械を購入して頂いています。自社製品開発当時の社員は遠巻きで見えていましたが、新聞やテレビで取り上げられるので好意的な意識に変わってきています。ハイテクでは大手企業に勝てません。しかし、ローテクを使った隙間産業を狙った製品を今後も作っていきたいです。海外からも注目され、今月もマンマーから3人見学に来られました。部品加工、また自社製品製作で工場が手狭になっているので、次のステップとして工場拡張と、更に大型の5軸加工機設備を考えています」と宝角社長。

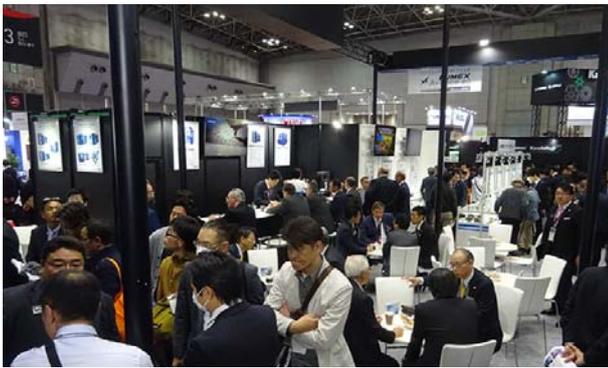
2棟の工場があり、旋盤加工工場とマシニング加工工場と分けて運用していました。工場内には様々な形状の鋳造部品があり、正に鋳造部品加工に特化していることが分かりました。量産になれば鋳造部品になるとの宝角社長の言葉に同社の強みを改めて実感しました。

『未来を想像／創造するイノベーション』をテーマに

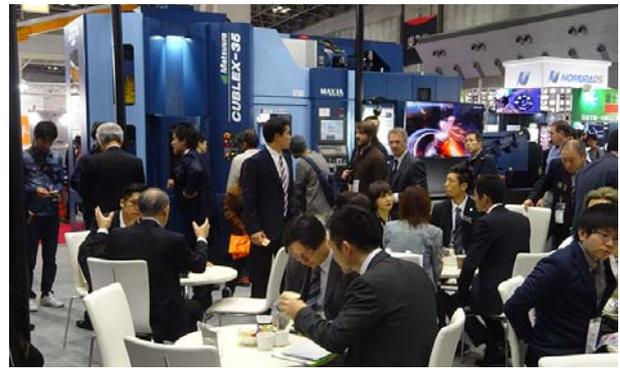


「未来へつなく、技術の大樹」を統一テーマとした、アジア最大級の工作機械見本市「JIMTOF2018（第29回日本国際工作機械見本市）（主催：一般社団法人日本工作機械工業会/株式会社東京ビッグサイト）が11月1日（木）から11月6日（火）までの6日間、東京ビッグサイトで開催されました。平成28年に新しく竣工された新展示棟（東7・8ホール）を含めた全展示棟を使用することで、過去最大規模の開催となりました。出展数は1,085社・5,524小間で、期間中は約15

万人の来場者がありました。海外企業も135社、388小間のブースを設け、設備投資が好調な日本国内の需要を取り込もうと自慢の技術や製品をアピールしていました。



▲にぎわうマツウラブース



▲CUBLEX-35 PC32

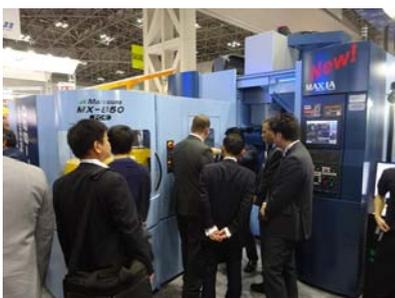
マツウラが提案するソリューションの実演

このマツウラブースでは『未来を想像／創造するイノベーション』をテーマに最新技術を展示いたしました。大型部品加工への対応が可能であるハイブリッド金属3Dプリンタ「**LUMEX Avance-60**」では、ドローンのフレームを空洞化した軽量化加工を実演しました。

「働き方改革」が話題となっている中で、製造現場の「働き方改革」を可能にする変種変量生産と長時間無人運転を提案するドローン3台の5軸マシニングセンタと1台の5軸複合マシニングセンタを展示しました。今回5軸制御立形マシニングセンタ「**MAM72-70V**」と「**MX-850 PC4**」の2機種を初出展しました。小型ワークに強みを発揮しPC10を装備した「**MX-330 PC10**」は、コンパクトで導入して直ぐ自動化に対応できると多くの方々の注目を集めていました。また長時間運転する為にPC32を装備した5軸複合マシニングセンタ「**CUBLEX-35 PC32**」はマシニング加工と旋盤加工が1台で行える究極の工程集約マシンとして更なる自動化を目指される方から多くの質問を受けていました。

マツウラブース内の2台の大型液晶TVに「5軸ユーザーボイス」としてマツウラの5軸加工機ユーザーを取材したインタビュー映像を流しました。5軸加工機と多面パレットによる生産革新について、経営者、または担当者が語ることで、この加工方法の実績をアピールしました。

3日（土）には今年4月に入社する学生のJIMTOF見学研修を行い、工作機械業界の現状とマツウラの最新技術を学びました。「工作機械業界は熱い業界であり、さらにこれからも伸びていく。この業界に携わると思うと非常に楽しみです」と頼もしい意見があり希望に溢れていました。



▲MX-850 PC4



▲MAM72-70V



▲内定学生

マツウラの最先端技術をブースに集結

「5軸ユーザーボイス」にご協力頂いたユーザー様

- ・株式会社曙製作所
- ・株式会社池松機工
- ・株式会社石金精機
- ・株式会社井部製作所
- ・株式会社NTKセラテック
- ・小野電気株式会社
- ・株式会社和コーポレーション
- ・株式会社積進
- ・株式会社タマテック
- ・株式会社中村機械
- ・株式会社宝角合金製作所
- ・ミナト光学工業株式会社
- ・八千代田精密株式会社
- ・株式会社よしいけ工業所
- ・株式会社ユタカ



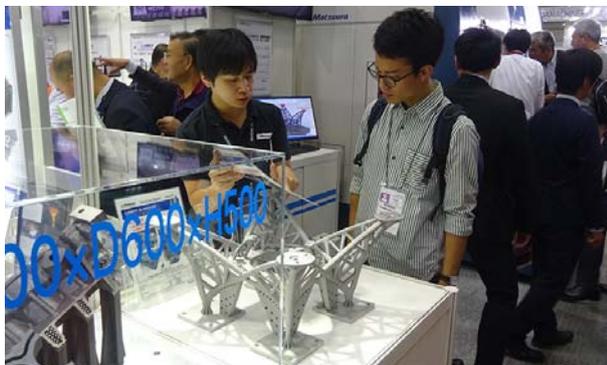
▲5軸ユーザーボイス

進化を続けるハイブリッド金属3DプリンタLUMEX Avance-60

現在、新たなモノづくりのあり方として、「個の量産」の実現が期待されています。個の量産とは、一個流し生産でも、大量生産と同等なコストと能率で生産することです。個の量産を実現するものとして、金属3Dプリンタが期待されています。今回のJIMTOF2018では様々な方法での金属3Dプリンティング技術を搭載した機械11機種が出展され、工作機械として注目を集めていました。

マツウラでは、前回に引き続き**LUMEX Avance-60**を出展し、今話題の大型ドローンのフレーム作成の実演を行いました。フレームは空洞化による軽量化と強度を保つ為の複雑な構造を実現していました。

また、ハイブリッド金属3Dプリンタの実用事例を示すために、多数のユーザー様よりサンプルワークをお借りして展示いたしました。マツウラブースに来られた方は、必ずサンプルを熱心に見られ、ハイブリッド金属3Dプリンタ技術が実用レベルであり、モノづくりの変革を実感されていました。



▲LUMEX Avance-60で加工したドローンフレーム



▲LUMEX Avance-60

LUMEX Avanceサンプル展示にご協力頂いたユーザー様

- ・東金属産業株式会社
- ・大阪電気通信大学
- ・金沢工業大学 夢考房
- ・三光合成株式会社
- ・タケダ金型株式会社
- ・日本ドレッサー株式会社
- ・パナソニック株式会社
- ・七宝金型工業株式会社
- ・株式会社メイク
- ・山梨県産業技術センター



▲提供頂いたサンプル



5軸制御立形マシニングセンタ「MX-850 PC4」販売開始

マツウラは、5軸制御立形マシニングセンタ「MX-850 PC4」の販売を開始しました。

5軸制御立形マシニングセンタMXシリーズは、「はじめてでも安心・簡単5軸」をキーワードに、良好な操作性・高い加工能力・コストパフォーマンスを有し、2010年から販売開始、MX-520、MX-850、MX-330とラインナップを3機種に拡大し、5軸加工入門機として確固たる地位を築いてきました。(MXシリーズ累計1,110台: 2018年9月末時点)

これまでにマツウラは、MXシリーズにシンプルオートメーションとして、2016年にMX-330 PC10、2017年にMX-520 PC4をリリースしてきました。今回、大型機のMX-850にPC4仕様をオプション設定可能とすることで、MXシリーズ全てで無人化・自動化に対応可能となり、お客様の幅広い要求にお応え出来るようになりました。

今回、MX-850の標準仕様も見直し、基本性能を向上しました。機械を制御する「Matsura G-Tech 31i」は、「見やすい・迷わない・間違わない」をキーワードに最新NCとマツウラ独自のソフトウェアを融合させる事で更なる操作性向上を図りました。新世代MX-850は5軸加工の入門だけでなく、「生産性向上」の要として活躍いたします。



▲MX-850 PC4

【特長】

- MX-850** シンプルオートメーションシステム (オプション: 専用パレットD630mm)
 - ・PC4 (フロアパレットシステム) + 工具本数90/120本マガジン
 - ・PC1 (シングルパレット)
 - ・パレット + 治具油圧供給用システム対応3ポート
- MAXIA** スピンドル (重切削から高速切削まで対応)
 - ・12,000 min⁻¹/ 187.3Nm (標準)
 - ・15,000 min⁻¹/ 350.0Nm (オプション) パワーアップ
 - ・20,000 min⁻¹/ 108.4Nm (オプション) ハイスピード
- テーブル仕様(お客様の幅広い要望に対応)
 - ・D500mm (標準)
 - ・D700mm/ D500mm +フラットテーブル(オプション)
 - ・治具油圧供給用システム対応6ポート(オプション)

【主な仕様】

*ビュレット形状

項目	単位	<参考>MX-330	<参考>MX-520	<NEW>MX-850
移動量(X/Y/Z軸)	mm	435/ 465/ 560	630/ 560/ 510	900/ 780/ 650
移動量(A/C軸)	deg	-125 ~ +10/ 360	-125 ~ +10/ 360	-125 ~ +30/ 360
早送り速度(X/Y/Z軸)	m/min	40/ 40/ 40	40/ 40/ 40	40/ 40/ 40
早送り速度(A/C軸)	min ⁻¹	17/ 33	17/ 33	17/ 33
切削送り速度(X/Y/Z軸)	m/min	40/ 40/ 40	40/ 40/ 40	40/ 40/ 40
主軸回転速度	min ⁻¹	15,000	12,000	12,000
主軸パワー	kW	5.5 / 7.5	7.5 / 11	15 / 22
主軸トルク	N・m	65.1	120.0	187.3
パレット仕様(オプション)	枚	PC10	PC4	PC4
最大ワークサイズ (パレット仕様オプション時)	mm	D420 x H320* (D330 x H300)	D710 x H350* (D520 x H330)	D850 x H450* (D850 x H385*)
工作物許容質量 (パレット仕様オプション時)	kg	80 (80)	200 (175)	500 (400)

地域社会貢献の取り組み

マツウラでは、地域社会貢献の一貫として工場見学を積極的に受け入れています。10月・11月に県内の小学校1校（松本小）、中学校4校（坂井中、金津中、河野中、川西中）の学生累計174名の方々にマツウラの工場を見学頂きました。



工場見学をきっかけに、日本のモノづくりについて関心を抱いて頂ければと思います。さらには、将来地元である福井で仕事をする方が増えることを期待します。

後日、お礼のお手紙が届きましたので、一部紹介致します。

お礼のお手紙

- ・見学のときは、ワクワクドキドキしながら機械や作業の姿を見せていただき、感動と喜びでいっぱいでした。
- ・松浦機械製作所で働いている方は、社員1人1人が主役で、みなさんが真剣に仕事をしていました。私もがんばって何か1つ真剣にやってみようと思いました。
- ・「世界の工業を支えている」というぐらい世界レベルの機械を作っていることにとても感動しました。働いている方々はみんな優しくそうで、この方たちだからこそ、こんな良い物が作れるんだな、と機械や働いている方々を見て思いました。福井にこのような会社があることを誇りに思います。

シングルorダブル



社長 松浦 勝俊

平成最後の元日、マツウラの100%子会社であるアイ・エム・エヌ株式会社を吸収合併し、新生・株式会社松浦機械製作所 武生工場になりました。1985年（昭和60年）、米国ナショナルマシナリー社から前身の日本ナショナルマシナリー社を買取り、アイ・エム・エヌ社を設立してから34年が経過しました。当時の正社員は25名でしたが、今回の吸収合併前には64名を数え、同社はマツウラグループの主力組立工場にまで成長しました。買収前は、鍛圧機械の組立を生業にしていた会社でしたので、ミクロン台が要求されるマシニングセンタの組立に転換するまでに多くの苦勞がありました。

また、同社には当時のマツウラにはいない国際感覚に優れた多くの人材が在籍しておりました。

平成と共に

その方々が、その後本社の国際部門や製造部門で多大なる貢献をして頂きました。当時、買収を決めた創業者の松浦敏男が「工場は本社から遠くてどうかと思うが、あの人材は是非欲しい」と言っていたと聞き及んでいますが、その後のマツウラでの大活躍を見るにつけ、我が祖父ながらその先見の明には感心しきりです。

同社の歴史は「平成」にほぼ重なり、バブル景気からバブル崩壊、ITバブル、リーマンショック、そして現在へと続いて参りました。買収当時と比べると現在では、工場も倍ほどの大きさになりました。苦しいときはジッと耐え、繁忙な時は遮二無二に頑張っって何とか生き延びてきた結果と、この吸収合併に際し感慨一入です。

もう現役を離れておられる偉大なOBの方々にこの吸収合併後も隆々としたマツウラを見せていかなければという強い思いと共に、決意を新たに身の引き締まる2019年の正月です。

ドイツ・フランクフルトで開催されたformnext2018に出展

2018年11月13日(火)～16日(金)までドイツのフランクフルト国際見本市会場(Messe Frankfurt)でformnext2018が開催されました。この展示会は、3Dプリンタを中心とした最先端技術が集う国際見本市です。また世界各国から多くの専門家が集まる国際会議が開催され、1,000名以上の参加者があり、3Dプリンタ技術の目覚ましい進歩に驚く展示会でした。

マツウラは、ハイブリッド金属3Dプリンタ**LUMEX Avance-25**と**LUMEX Avance-60**を出展しました。ブースでは、ユーザーコラボレーションのコーナーを設け、日本とヨーロッパの**LUMEX**ユーザーのサンプルを展示し、実績をアピールしました。



お知らせ

1 アイ・エム・エヌ株式会社の吸収合併

この度、株式会社松浦機械製作所は、平成31年1月1日をもちまして、子会社であるアイ・エム・エヌ株式会社を吸収合併することになりました。

2 「第1回次世代3Dプリンタ展」に出展

次世代3Dプリンタ展は、3Dプリンタ、積層造形(AM)、3Dプリンタ材料、3Dプリンタ受託サービスなどを出展する専門展示会です。**LUMEX Avance-25**とCAD/CAMシステムを展示いたします。是非ブースにお立ち寄り下さい。

開催期間 平成31年2月6日(水)～8日(金)

会場 東京ビッグサイト

出品機種 ハイブリッド金属3Dプリンタ**LUMEX Avance-25**
CAD/CAMシステム**GibbsCAM**、**PowerMILL**、**hyperMILL**、**LUMEX CAM**

3 2019年度 松浦機械製作所暦

1	2	3	4
日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
5	6	7	8
日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9	10	11	12
日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

(■は休日)

【訂正とお詫び】

平成30年10月号8ページに記載いたしました展示会“**AIRTEC2018**”は、“**AMB2018**”の誤りであり、開催期間は2018年9月18日(火)～9月22日(土)でした。訂正とお詫び申し上げます。

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から平成30年10月度の受注状況が発表されました。10月度の工作機械受注額は前月比9.0%減の1,396億円となり、14ヶ月ぶりに1,400億円を下回りましたが、10月としては、過去2番目の高水準でした。内需は576億円と前月比10.5%減で、

8ヶ月ぶりに600億円を下回りました。外需は819億円と前月比7.9%減で、2ヶ月連続で800億円を下回りました。また次回のJIMTOF2020は、東京オリンピックの影響で初の12月開催となることも発表されました。

* 7ページで紹介しましたが、福井県内の小学校、中学校の工場見学が多数ありました。福井県では、

毎年約3,000人の高校3年生が県外大学に進学し、卒業後福井県に戻る学生は約1,000人です。県外大学に通う学生に聞くと「福井県内の企業を知らない」との声が多くあります。今回のように小学生、中学生の時に、福井県内企業を知る機会があれば、大学卒業して福井県で就職してくれると期待しています。

経営企画室 上村 誠